

宮沢賢治と藤原健次郎

夜空で再会

小惑星に命名「藤原健次郎」と「南昌山」

太陽を周回する二つの小惑星に、本町白沢出身で、宮沢賢治が兄と慕った「藤原健次郎」(1894〜1910)、本町のシンボル「南昌山」(標高848m)の名が付けられました。福島県郡山市の天体写真家、藤井旭さんのグループが提案。賢治の名が付いた小惑星は平成8年にすでに誕生しており、今回命名されたものを含む3惑星は令和6年7月、白沢の健次郎生家から南昌山がある

西南方向に一望できるタイミングが訪れる見込みです。健次郎は盛岡中学校時代に賢治よりも1年先輩で、2人は健次郎宅や南昌山で親交を深めました。健次郎は病気によりわずか16歳で急逝。わずかな時間しか共にできなかった賢治と健次郎は、南昌山から眺める思いの星空の中で、再会を果たすこととなります。

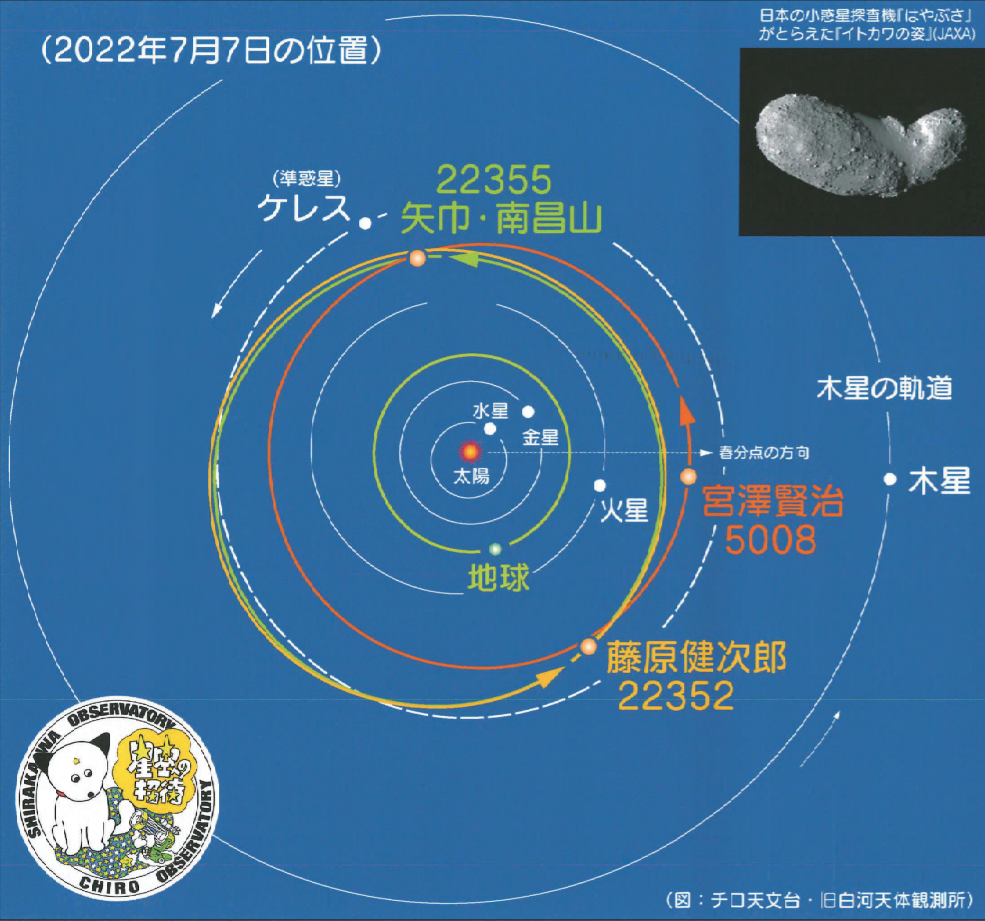
命名を記念してパネル展を実施

町では、この小惑星への町ゆかりの名が付いたことを記念し、町内で記念パネル展を実施。そのパネルの一部を掲載し、三つ

の小惑星の位置関係や、同時に眺められる時期とその時の見え方などを紹介しますので、2年後の夜空を楽しみに待ちましよう。



小惑星「5008番 宮澤賢治」は、1991年に滋賀県の民間天文台「天球館」で発見されました。その宮澤賢治は盛岡中学の寮で1年先輩の大親友藤原健次郎を病気で失って以来、「夢でもいいから健次郎君に会いたい」と願っていたといわれます。「では、その賢治の願いを叶えてあげよう」と大勢の賢治ファンや天文ファン達が藤原健次郎の名前を小惑星に命名し、二人を宇宙で会えることを思いつきました。さらに二人が親交を深め「銀河鉄道の夜」の物語の舞台となったとされる「南昌山」の名も合わせて命名することを提案、こうして「宮澤賢治」、「藤原健次郎」、「矢巾・南昌山」の三つ小惑星が誕生、永久に宇宙をめぐる続けることになったのです。



解説 左の図は太陽系の惑星などの位置関係で小惑星の番号と名前が記されている。右上の写真は藤原健次郎、宮沢賢治がともに盛岡中学校に在学時の写真。



解説 令和6(2024)年7月の夜空の様子。南から西の空に向かい南昌山、宮沢賢治、藤原健次郎の三つの小惑星が並びます。(肉眼の観測は難しいため、天体望遠鏡などが必要)

※12〜13分にまたがる図、13分上部の図と写真・記事はチロ天文台(旧白河天体観測所)提供